

## 「MLA 連携の枠組み」をめぐって

### ◆ 課題文献の背景

#### \* 2010年度明治大学図書館情報学研究会シンポジウム「MLA 連携の意義と課題」

- ・ 発表者
  - 古賀：理論的枠組みの立場から
  - 松下鈞氏（帝京大学）：音楽資料の立場から
  - 栗原智久氏（江戸東京博物館）：博物館の立場から

### ◆ 2つの枠組みについて

#### \* NISO Framework（第3版, 2007年）

- ・ 「デジタル・コレクションの持続性」を、技術面および運営面でどう保障するか
- ・ 各種のデジタルフォーマットやメタデータ等の一覧
- ・ 「デジタル化した画像の所有権」といった点（前回のビデオでのトピック）は十分には扱えていないか？

#### \* ELIS（第3版=ELIS3, 2010年） ※全項目一覧は別紙参照

- ・ “Library and Information Sciences”（複数形に注意）の枠組みのなかで、さまざまな「情報領域」「文化的記録」が扱われる
- ・ 事典というより「レビュー」に近い：項目内での著者名の明記・分量の多さ、多くの文献の引用・参照

### ◆ 次回（10/24）への宿題

配布する以下の論文を一読し、感想や疑問点を次回授業の最初に述べられるようにすること。（レポートなどの提出は不要。口頭でよい）

- ・ 田窪直規. “博物館・図書館・文書館の連携、いわゆる MLA 連携について”. (テキスト『図書館・博物館・文書館の連携』巻頭総論)

特に、以下の点については、自分なりの考えをまとめておくこと。

- 「6. MLA の差異と位置関係」での記述について、どう思うか。
- 「8. 日本の抱える問題点」での記述に対して、どう思うか。